

「エコノミクス」創刊にあたって

九州産業大学経済学会機関誌『エコノミクス』創刊号をここに発刊するに至った。

経済学部は昭和38年4月開設の商学部経済学科を母体として、初代経済学部長に武野秀樹教授を推戴し平成5年4月に分離独立したものである。本年度は恰度4年目となり所謂完成年度を迎えることとなった。学部開設以来独立した機関誌の発行が俟たれていたのであるが、今般漸くその運びとなったものである。これまで『商経論叢』によっていた研究発表の場を本誌に移すことになり、名実共に経済学部の独立が実現する訳で、学部教員一同慶びを共にするものである。分離独立に際しては商学部の山本政一、石原定和新旧学部長はじめ商学部教員各位の高配を忝くしたが、今後とも変らぬ友好の程をお願いしたいと思う。

さて、わが国で最初に発行された雑誌は慶応3年10月の『西洋雑誌』とされているが学術雑誌としては明治7年3月に出た『明六雑誌』を濫觴とする。この雑誌は初め1か年の売行きが10万5984冊で大した人気であった。経済雑誌としては田口卯吉の『東京経済雑誌』(明治12年1月)や犬養毅の『東海経済新報』(同13年8月)が有名であった。経済学学術雑誌は、経済学論文を取扱った『国家学会雑誌』や『内外論叢』があったが、経済学専門の雑誌としては『経済学商業学国民経済雑誌』が明治39年6月に創刊され、その後各大学・高等商業学校の機関雑誌は著しく増加した。現在ではそれこそ驚くほどの機関誌が発行されているが、大学教育の根幹は、あくまで自由な学問研究の基礎に成り立たねばならないことは言うを俟たない。ここにおいて『エコノミクス』は粧いも新たに出発したわが九州産業大学経済学会の伝統の形成に課せられた正に大きな使命を担っているというべきであろう。会員諸賢の積極的投稿を願うしだいである。

1996年11月

九州産業大学経済学会長

三 浦 忍